

学校研究だより

南部小
平成 17 年
6 月 15 日 小北

2 回の授業研究会を終えて

ブロック研究会は全員での共通理解を図りにくいので、通信をまめに出したいと考えました。ブロックの授業研究を参観なさった先生は、感想を授業者に伝えてください。

<今年度の学校研究の重点>

2 つの立場でやや異なる

①他教科に取り組む場合

②国語科に取り組む場合

- ① 他教科に、伝え合う場面を意識的に設ける。その教科でどのような伝え合う力をつけたいと思ったかを提案する。
- ② 国語科の場合は、これまでの研究を踏まえつつ、眼前の子どもの伝え合いの実態や国語の力を考慮し、目の前の子どもが一步前進できるよう、学習活動を計画する。

(5/24 国語：自分の考えを持ち、それを話させるに重点を置いた)

めざす伝え合いの姿——子どもから子どもへ（質問したり、感想を述べたりなど）
子ども—教師—子ども—教師ではなく

●重点1 「伝え合いたい」という意欲を喚起するような魅力のある学習活動とは 何かを具体的につかむために日々の授業で試行錯誤する。

①伝え合いが成立する学習とは

・選択学習よりは、同じ課題に全員が取り組んだときの方が伝え合いが成立しやすいということを田宮先生（6/8算数）の授業から学んだ。

②伝え合いたいという意欲を喚起するには 6年国語【学級討論会】の実践より

・教科書に載っている課題ではなく、子どもが今、一番、話し合いたいと思っていることを題材にしたとき。

*そのためには教科書そのままではなく、教科書を加工（題材を身近なもの・子どもの必要感を考慮したもの）したり、新しい課題に代えたりすることが必要か。

日々の授業で——自分のクラスで伝え合いが成立したときを洗い出しそこに、どんな要素がかくれていたかを分析しておくといいいのではないか
(そして記録しておく)

●重点2 子どもから子どもへの伝え合いを成立させるための様々な試みの創造に学び合う

学級経営、子どもの内言の耕し（現在、私が取り組んでいるのは見る力を育てるということ）、道徳や学級会での発言練習、自分の立場を必ず明らかにする習慣、友達の見解に反応する練習（算数科でやりやすいと感じる）、友達の発言と一言でもいいから、ちがうことを述べる習慣づくりなどを出し合ってはどうか。

ブロックの研究授業を参観して

<感想>

先生

ありがとうございました！

1 授業や授業者から学んだこと・感じたこと

2 「伝え合い」について